

令和元年度第3回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和2年3月23日（月）16時00分～17時30分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館3階）
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
橋田教育長、坂本委員、小原委員、桑原委員、松本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部長、同部都市経営室長、同室主幹、同室係長
こども部長
子育て支援課長、同課課長補佐、同課企画係長、同課主事
幼児課長、こどもみらい課長、こども健康課長
【教育委員会事務局】
教育総務部長、総務課長、同課総務係長
学校教育部長、学校教育課長、生徒指導係長、同課指導主事
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 内容
 - ①報告事項
 - ア 長崎市における新型コロナウイルス感染症対策について
 - イ 令和2年度子どもに関する予算の主な内容について
 - ウ 令和2年度「長崎LOVERS育成プログラム」につながる取組みについて
 - ②意見交換事項
 - ア 場所の切れ目のない子育て支援について（調査結果）
 - イ 今後のテーマについて
 - （ア）場所の切れ目のない子育て支援について
 - （イ）長崎市教育大綱について
 - (3) 閉会

6 議 事 以下のとおり

<p>事 務 局 (市長部局)</p>	<p>【16:00 開会】 ただいまから、令和2年度第3回長崎市総合教育会議を開催します。配付しております次第に沿って、市長から進めさせていただきます。</p>
<p>市 長</p>	<p>それでは今年度最後の総合教育会議です。今日は、まず報告から入らせていただきます。次第の2報告事項(ア)の長崎市における新型コロナウイルス感染症対策についてです。今一番関心が高いところだと思いますが、この件について事務局から報告をお願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>(市長部局説明) (教育委員会説明)</p>
<p>市 長</p>	<p>今、市長部局と教育委員会から説明がありましたが、今回の新型コロナウイルスの感染症対策としての基本的な考え方としては、感染症の広がりをできるだけ防ぐということ、もう一つ、社会、経済的機能への影響を最小にするということ。このバランスを大事にしようということで、最初から取り組んでいます。これは国全体も基本的にそういう考え方なのですが、そのバランスが時期に応じて少しずつ動いていくので、そのバランスを時期に応じてしっかりとみながらやっていく。だから、封じ込めることだけに100パーセント注力しすぎると今度は社会機能が長持ちしなかったりするので、バランスを取りながらということで、とにかくこの2週間は拡大を防ごうということ、学校を休校する時も、小さいお子さんがいらっしゃるところはなかなか調整ができず、お子さんをみる状況をつくれないう方がいるはずということで、3年生までは学校に預けることができるようにしたり、長期化しているから臨時登校をするように教育委員会が判断してくれたり、力を合わせてなるべくどこかに大きな犠牲が行き過ぎないようにバランスを考えながらやっていくという状況です。講じてきた対策については今説明したとおりですが、学校がどうなっているのか、あるいは、児童クラブがどうかということについて簡単に報告をお願いします。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>先ほどの資料の1ページ3番、特段の配慮を必要とする児童・生徒への対応について、2日分ですが表を掲載しています。1～3年生の児童、障害のある児童生徒で一人で家にいることができない子どもたちは学校で受け入れますということを保護者に紹介させていただきました。相当数の子どもたちが来るのではないかと考えていましたが、表に記載のとおり3</p>

	<p>月4日は小学校が81人、3月5日は95人です。この数はその後もあまり変わっていません。大体80～90人、1学校あたりにすると1人、2人という数です。今回は保護者の方が協力して自宅で休養という本来の趣旨を本当によく守っていただき、対応して下さったと感謝しているところです。学童クラブとの関係でも学校の受け入れがどれくらいできるかということで危惧されていたんですが、場所の提供という形ではほとんどいろんな学校で対応して下さっているところです。間に、先週、事前登校、臨時登校を行ったというのも、子どもたちも先生方も落ち着きを少し取り戻した一つの要因ではないかと思います。思ったよりも落ち着いた中で、一週間を過ごせたという感想をもっています。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>児童クラブにつきましては、今回、学校の休校要請に応じて、本来、放課後の開所が前倒しになり、夏休み期間中と同じような形での開所となりました。そのような中、児童クラブの方々のご協力をいただいて、3月4日から全クラブに朝から開所していただきました。この体制を整えるために本当ご尽力いただいたと思っています。</p> <p>児童クラブは密集性が高まるといった意見があった中で、学校の協力を得て、教室、図書室、校庭、体育館などを開放していただき、時間的に密集性を減らすような取組みをすることでしっかり連携もできたかと思えます。幸いなことに、児童クラブでも発生していないというところで、支援員の方々の努力もあったと感謝しています。</p>
<p>市長</p>	<p>今の新型コロナウイルス感染症対策について、質問等はございますか。今度は臨時の学校の校庭開放もされるということです。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、次に移ります。</p> <p>令和2年度の子どもに関する予算について、先日、2月議会が終了し、令和2年度の予算が成立しましたので、子どもに関する予算の主な内容について、それから、ウ 令和2年度「長崎LOVERS育成プログラム」につながる取組みについて、これまで皆さんとお話しをしてきた内容ですが、それが令和2年度どうなるのかについて報告をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(市長部局説明) (教育委員会説明)</p>
<p>市長</p>	<p>令和2年度の予算の関係を中心にした説明がありましたが、長崎LOVERS育成プログラムについては、これまで皆さんと議論しながら、先日</p>

委員	<p>は片淵中で一緒に授業見学をしたという状況ですが、その後の意見交換で言えなかったこと、あるいは今の説明全体について、何かございませんか。</p> <p>長崎若者会議について、年齢構成が15歳から34歳までの若者で構成するとなっておりますが、15歳から34歳までをひとつの塊としてお考えですか。</p>
事務局 (市長部局)	<p>若者の定義を15歳から34歳とした理由は、平成28年に施行された若年者雇用促進法に基づく方針の対象の上限を35歳未満としていることと、言葉の定義のなかで若年層というのが統計では15歳から24歳とか34歳程度とするという解説がなされていたということ。それから、転出についても、35歳前後から減少傾向にあるといったことから、15歳から34歳を若者の定義として若者が企画チャレンジできるしくみづくりをまずしようということで、来年度から具体的に動きたいと考えます。</p>
委員	<p>質問の意図は、現実的に企画を立ち上げたりチャレンジする時に15歳から34歳というのでは、チームとしてどうなのかと。34歳というと社会人としてバリバリやっておられるような世代ですし、15歳というとまだ中学3年生ということで、うまく噛み合っていくのかというのが気になりました。これから中身を具体的に練っていかれるということですね。</p>
事務局 (市長部局)	<p>コーディネーターと業務委託をすることにしており、コーディネーターに間に入ってもらっているような若者、その幅のなかでどういうチーム編成をするのかというのも具体的に考えていただくこととしています。</p>
委員	<p>先ほど市長部局、教育委員会からいろんな事例がありましたが、継続されている事業のなかで効果のほど、成果の検証はどうされているのかお尋ねしたい。できれば、やりっぱなしではなく、どういう成果があるのかわかるといいと思う。</p>
事務局 (市長部局)	<p>毎年施策評価を行っています。その中でLOVERS育成プログラムにつながる取組みも事業レベルではありますが、例えば今年度の取組みであれば、6月から8月頃外部委員も交えて評価会議をすることとしています。今年度の取組みがどのような効果があったのかというのは、今、手元にありませんが効果検証をすることとなります。</p>

市長	<p>これは、一つの事業という事業レベルよりも、それを合わせた施策レベルと政策レベルで事業がどう貢献するかを含めたそういったレベルの検証をいろんな分野の市民の方に入ってもらって施策評価をしています。</p>
事務局 (市長部局)	<p>事業一つひとつではなく、事業のかたまりとして基本施策というもう一つ上のレベルの施策体系で指標をもうけているので、それにどれだけ貢献したかという評価を行っています。</p>
委員	<p>関連していいでしょうか。個人的に資料をつくってきましたのでご覧ください。持続可能な開発目標の資料について、ユネスコが2030年度までの17の目標とそれぞれに169のターゲットがあるんですが、その中で、例えば目標4の教育では、7番目のターゲットがキャリア教育、11番目と12番目がまちづくり、それから消費者を育てるということになります。</p> <p>何を言いたいかといえば、この長崎LOVERS育成プログラムはSDGsと関連するところがたくさんあるんです。長崎LOVERSの基本方針には、長崎のまち社会を支える担い手というキーワードもあるし、さまざまな価値観や生き方を学ぶ機会の提供、それから、ずっと将来につなげていく。それから、社会的職業的自立に向けた資質能力の育成、それから、グローバルな視点を身に付ける。長崎のまちを愛し、行動するというところをSDGsと関連づけてやっていくと、たぶんそうされていると思うんですが、明確にそれがあるとやりやすいかなと思います。</p>
市長	<p>12番は総合教育会議が先どりですね。SDGsは、今注目のテーマですね。</p>
委員	<p>世界中がばらばらに発展するのではなく、やはり筋を通しておかないと。平和教育も入っています。これは長崎は先進的ですけど。</p>
市長	<p>長崎市の総合計画は、来年度が第四次総合計画の最後の年なので、今、第五次総合計画の策定作業をしています。その中で掲げているめざす姿が、「世界都市」と「人間都市」ですが、そのめざす姿というのはまさしくSDGsだろうと思います。特に人間都市の部分はSDGsに近いところもあるし、世界とつながっているという面では世界都市の方も、平和や環境もそうですし、すごく重なるところがあります。SDGsをめざそうという形になるのかなと思います。</p>

委 員	<p>目標の中に人権もあれば平和もあれば、貧困もあるし障害者、高齢者さまざま、人権にかかわるのも目標の中にたくさん掲げられているので、管理していくと世界の動向とつながっている気がします。</p>
委 員	<p>たくさんの教育が学校現場などでもいろいろ使われますが、景観教育について、学校と地域とどのように取り組まれるのかをもう少し詳しくお伺いしたい。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>景観教育については、具体的な内容はこれから練っていきますが、基本的には年に2、3回景観形成重点地区の小学校7校のうち2、3校で景観に関するワークショップを行います。自分のまちの景観はどういったものであるという自分たちのまちの誇りとといったものをワークショップによりまとめ理解するというものです。</p>
委 員	<p>こういう景観形成重点地区がある学校だけにとどまらず、長崎市全体を対象にするべきかと。そこに住んでいる子たちだけだともったいない気がします。くんちのことはくんちがあるまちの子だけというのではながさきすべての子どもたちに行き届かないのではないかと。</p> <p>もう一点は、学校もカリキュラムを立ち上げて文科の指定の上に授業数は切っていつているので、いろんな教育が学校に入るのは、現場としても大変かと思いますが、私としては、学校は大変かもしれないが、長崎市の全部の学校で取り組んでいけるようにやっていただけたらと思います。</p>
教 育 長	<p>景観教育として打ち出したのは今年度が初めてなので、とりあえず、まずは景観形成地区、身近にそういうところがある学校からということで、委員がおっしゃるように将来的には全市的に考えなければならないと思います。総合的な学習などで対応されると思うんですが、その辺は学校教育の方としっかり連携をとってやってくださいとお願いしているところです。</p>
委 員	<p>ぜひ、全市に広げて長崎の子どもたちだけはこの教育を受けているというふうにお伺いしたい。</p>
市 長	<p>景観教育という名前になっていますが、基本的にはまちづくり、目に見えるところから</p>

委 員	<p>景観教育の件について、最後に記載されている実施の際にはまちづくり団体などの地域の方の参画もということですが、それが一番大事なことでないかという気がします、もしそうだとすれば、ネーミングがよくないと思うんです。教育と付くと面白くないことのように思える。言葉はよくないかもしれないが、もっと遊び感覚で入ってこれるようなことで学んでいこうという雰囲気づくりがあった方がいいのかなという気がしました。</p>
市 長	<p>ネーミングは本当考えなければいけないですね。</p>
委 員	<p>でも教育をつけないと学校に持っていきにくいですよ。</p>
市 長	<p>では、次に、意見交換に移りたいと思いますが、まず、ア 場所の切れ目のない支援についてです。今後取り組んでいく大事なテーマですが、その調査結果について、8月に開催した会議の時に議題として提案があり、人口が同規模の中核市の状況について調査をしましたので、その結果について事務局から報告をお願いします。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>(市長部局説明)</p>
市 長	<p>いろんなまちでどういう子育ての応援をしているのか、そのまち全体が子育てを応援してますよというメッセージを伝えるために、どんなことができるのかということなんです、いろんなアイデアがたぶんあると思うんですが、そういう中で、長崎ではこんなことができるんじゃないかとか、アイデアフラッシュのような形でもいいので、いろいろ出し合って、3年度予算に向けて何かできることを少し集約できればと思いますので、自由にご意見をいただければと思います。</p>
委 員	<p>最後に説明があった対象者別のところで、親の欄の啓発が長崎市は空白です。子育てなので主に母親なのかなと思いますが、父親に対する取組み、啓発などについて。この三連休に柿泊運動公園や、稲佐山、あぐりの丘へ行っただけですが、こういう自粛の状況だったので家族ですごくたくさん来られていました。見ていたらお父さんが一番暴れまわっている。お父さんも本当は遊びたいんだなと思いました。やる気はあるけどお父さんがうまくできるような、親父の会などありますが、組織や、つながりができるような、お父さんたちの方が切れ目があるのではないかなと。先ほど事業の</p>

	<p>説明で妊婦さんのはじめてママ交流会などがありましたよね、個人的な持論ですが、奥さんが妊娠した時にお父さんも仮想妊娠しないといけないと思っているんです。子どもが生まれてからお父さんになったねではなく、奥さんが妊娠した時に、徐々に今はこのくらいだよみたいな、ですから、ママだけでなくパパもあっていいのかなと、フリー参加でもいいので、というような気もします。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>妊娠中のお母さん、お父さんを招いて総合事務所で両親学級ということで、お父さんも対象とするのもあり、お父さんにもおもりを着てもらって疑似妊娠を体験してもらって啓発もしています。また、男性のイクメンズという民間団体がいらっちゃって、そういう活動団体との意見交換をさせていただいています。やはりお父さんの参画が大事なので意識啓発と参画を基本において、ここに記載はしていませんが、そういうところで啓発活動を実際いれています。それから、地域でも民生委員児童委員さんにお遊び教室を開催してもらっていますが、そういうところにも来てもらったり、子育て支援センターの中でもお母さんと一緒にお父さんが来ることもありますので、そういうところでもお父さんたちにも気軽に来られるような形での呼びかけをしていきたい。資料に記載しておらず申し訳ありません。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>プレママ交流会については、市民提案型協働事業として初めての取り組みで、パートナーのいないひとり親家庭のお母さんも気軽に参加できるようにということで、ママに限定して取り組みをさせていただこうというものです。事業を検証して今後どういう展開がいいのか検討するものです。</p>
<p>市長 委員</p>	<p>母子手帳と一緒にパパノートを配布しているのもこの欄にくるのでは。</p> <p>長い間、職業的にいつも思っていたのは、中学校になっても親は変えられないなと思っていました。親の育ての場として、保育所でたぶんやってらっしゃるんでしょうけど、保育所に任せずに少し行政が入ってやっていくとか、PTAという組織があるので、小学校の早い段階で、PTAを使って親育てをしていく。子育ては学校に任せただけであれば、優秀な教員がたくさんいるので育てていくと思いますが、親子の部分の親育ての場の提供ということで、そういう意味でPTAや幼稚園の保護者会などを使ってうまくやっていけたらと、今はどうかわかりませんが、保育所の親御さんの横のつながりというのはほぼなかったような気がします。学校も</p>

	<p>そんなに濃くないです。</p>
市 長	<p>親父の会は結構増えてきているようですけど。</p>
委 員	<p>400人ほどいる学校で、親父の会のメンバーが20人ぐらいなので、厚さがないというか、いろいろして下さる方は、正月飾りから運動会のテント張りからずっと来てくださるんですけど、そこをちょっと広くしていければと思います。その場を提供するのに保護者会をもっと使えないかと。</p>
委 員	<p>親父の会もそれぞれがよくしていただいていますけど、中には何をしたいかわからないままのところもあつたりする。なので、最近ずいぶん増えてきていますが近隣の学校の親父の会がつながって、飲み会が多いんでしょうけど、しながら情報交換したりして、すごくつながって行って、市PTA連合会にいた時も親父の会をなんとかつなげるような仕組みをつくらうと言ってはいたんですが、なかなか進まなかつたので、またもう一度呼びかけていくような形ができればと。お父さんたちはやることがあると燃えてくれるので。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>親父の会というこだわりではなく、育成協や地域の方たち、地域でイベントとか活動している際には、そういうPTAの方やお父さん方の力を借りたり、お声掛けして参画していただく。</p> <p>地域の方からも人材育成という観点から、そういう意味でお声かけして参画して一緒に子どもたちもという動きがあるので、そこをもう少し支援をいただくといいと思います。</p>
市 長	<p>去年ごろ、親父の会とのちゃんぽんミーティングがあつて、やっぱり、学校によって形が違って、その中で、子どもが卒業すると親父の会も退会になるところと、残ることができるところがあつて、残ることができる方は先輩たちがずっと教えてくれるので、人間関係も面白くなるし、残っている人だけだと少なくなつたりすることもあるので、学校が違った横のつながりと、それから辞めなくていい親父の会のようにすると上にも広がってくる。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>育成協においてはPTAの方たちがそのまま育成協の役員に上がるといふ地域もあります。</p>

市 長	伊良林小なども卒業してもつながっていますね。
委 員	あれはお正月の門松づくりで片淵中と小学校でつながっています。作り方を教えてもらっていたらどんどん広がって、トラック1台で竹伐りに行ったりしています。
市 長	そういう親父の会というのは、市などがあまり手を出すと、今度は自主性がなくなる。自分たちでするところが面白いというのがありますよね。
委 員	私は親父の会などではなく、ここで考えられているような保護者向けの違うブロックの経験のある講話だとか、そういう意味で、もっと親御さんたちにも目を広げてもらいたい。いろんな、例えば、子育てを苦労している親御さんの話とか、そういうのは学校にもないなと思って。PTAとか、今後は来てくれる人が問題となってくるんでしょうが、そういう形で少しずつ、学校もという学校もたくさん担がないといけなくなるのですが、PTAという組織があるので、早い段階から助けてもらいながらやっつけば。たぶん、子どもが小さな時には親御さんも来ると思うんです。だんだん減ってくるので、幼稚園、保育所の時代ならたくさん親御さんはきてくれるんじゃないかなと思うので、そういう場を積み立てていって、中学校になってもそういう場を作っていくというのも一つかなと思います。
委 員	ファミリープログラムについて、私もさせていただいていますが、入学説明会の時にファミリープログラムを取り入れてくださっている学校がありますが、保護者が全員来られる入学説明会が一番アピールできる。また、最初の横のつながりで、少しでも入学に対する横のつながりに対する不安が取り除けるんじゃないかと思っていい機会なのですが、その時は、学校の説明や用品販売があり、30分ほどしか時間が取れないので、なかなか良さが伝わらないし、ちゃんと自分の意見を出すところまでいかず不完全燃焼で終わってしまう現実があり、もう少し充実できるといいなと思います。 逆に、今、委員がおっしゃったように、幼稚園・保育園でそれを実施できればと思って、自分の園では年長の保護者に向けて、入学前の不安などを出してもらったりしていますが、幼稚園や保育園ってつながっているようで、なかなかつながってなくて、そういう情報がなかなか行き届いてないかと思うので、幼稚園協会や、保育会などにも「ファミリープログラム」がありますというのが提示できるといいかなと思っています。

市 長	幼稚園、保育所はいいかもしれないですね。
委 員	学校ではなかなか厳しいかと思ったので、いくつかの保育園などでさせていただいていますが、なかなか増えてこないの。
市 長	この場所の切れ目のない子育て支援というのは、要するに、めざすゴールとしては長崎市全体が長崎市は子育てってしやすいまちだなと思ってもらうこと。それは、いろんな場面でなどで応援されてるという気持ちになれるし、困った時のサポートのシステムもあったりとか、ということで、住むなら長崎がいいよというふうに言ってもらえるまちになるにはどうしたらいいだろうかというのがそもそも目指しているゴールです。 そうなった時に、例えば、今回みたいな新型コロナウイルス感染症などが起きた時に、地域で弁当を作ってくれている人がいるとか、ああいうのはまさしくこのパターンに入るわけですが、そういうのを、例えばモデル地区をいくつか手をあげてもらって募って、うちは子育てしやすいまちですということを宣言してもらって、いろんな活動をしてもらったのを他のところにも紹介するとか、なんらか少し応援するプログラムがあったりするといいたいと思うんですが、そういう形から始めたりするのは一番わかりやすいパターンとしてあるのかなと。自主性も尊重できるし。
委 員	今回の新型コロナウイルスの件で、長崎市の旅館ホテル連合会は熊本の震災の時以来被災者を受け入れるということでの協力の協定を市と結んでいるんですが、子どもたちをホテル旅館で、預かってということが今後できないかと。そしたら、個室もあり、食事の提供もできますし、いわゆる子育て支援の応援団的なことにつながっていかないかなという気がします。
市 長	例えば、県内や市内の人達が長崎市内のホテルに泊まってみてモニタリングするようなそういう応援する形で、市内の宿泊を少し増やすようなことができないかと。今の時期だから、空いているスペースを使ういい意見があって、それが子育て世帯の応援になったら。気になる子どもを集めて子ども食堂じゃないけど食事場などするだけでも違うのかもしれない。
事 務 局 (市長部局)	子ども食堂という形で動いている地域も、今回自粛しています。

委員	<p>例えば、家で子育てに苦しんでいる方に息抜きに泊まりに行こうよキャンペーンみたいな、ホテルや旅館を格安で使っていいよ、時には泊まろうよというものがあってもいいのかなと。</p>
委員	<p>先ほど話した災害の時の受け入れもまさにそういう発想から始まったようなところがあって、今回、事業者が受けているダメージが大きすぎて今のところそこまで、これからそうなるのかなと逆に思います。</p>
市長	<p>例えば、妊婦さんでもいいし、ベビーカーの人でもいいし、子どもと手をつないでいる親子でもいいんですが、子育てをする人たちがまちをどういうふうに移動しているのか、移動するルートをずっとたどって行くと、ここではこんなサポートができる、ここではこんなサポートができる、買い物している時は預かっておくとか、というのが一番わかりやすいんですけども、どういうサポートができるのかというのを本当に子育て中のお母さんたちに聞いてみるのが一番いいような感じもするんですよね。</p> <p>机の上で考えるのではなくて直接聞いてみる。そういうことができると、支援センターに行って話を聞くだけでも収穫があると思うし、その作業をすると結構集まるのではないかな。これは贅沢だとかあるかもしれないけど、これは気づかなかったねというのも見つかるかもしれないので。それを次の会議までに何箇所かいろいろなところで場所を変えてやってみる。小学校は小学校であるかもしれないし、どんな場面でもいいから、くらしの中でこういう時にこんなサポートがあったらとか、こういう一声掛けてもらったらなど何でもいいんですが、嬉しかったことや、応援してもらっていると思ったことを集めてもいいかもしれないし、これからこんなのがあったらいいなというのも集めてみたり、いくつか質問を3つか4つぐらいに分けてしてみたらいいのが集まるかもしれない。</p>
委員	<p>私は集合住宅に住んでいるんですが、今回のコロナで学校から休校するという連絡を受けた時、学校が預かるとは知らなかったもので、どうしても行くところがなかったら預かりますよと掲示板に出そうかと思ったんですよ。やはり、よその子を預かるという勇気がないんですよね。いつも思うことなんです、一人で自分の家にいるよりは、せっかく同じ屋根にいたのだから、よかったらうちに来て宿題していいよとか言ってみようかと。今、特に家にいる時間が長いので思うんですけど、一般の私たちが一歩踏み込まないところがあるかなと思います。それが一番親御さんたちには</p>

	いい手助けになるのかなと思うんですけど。
委 員	きちんとシステムにすればですね。そういうシステムになっていれば、この人は信用できる人だとか。
委 員	責任問題などになった時に、ちょっと難しいなと思います。
市 長	システム化したものがファミリーサポートですよ。
事 務 局 (市長部局)	ファミリーサポート事業ともう一つ、一時預かり事業というメニューがあって、それは研修を受けた方に携わっていただく、だから昔のような両隣にするにしても顔がみえていないとちょっと。
委 員	私のように思う人はたくさんいるのかなと思う。その人達を軽く使えるようにやっていければ。
委 員	子育て中のお母さんたちって本当、上の子を幼稚園に送り出すちょっとした時間下の子をととか、ちょっと買い物に行く時などに、すぐそばにそういうのがあると、とってらっしゃると思うので。
委 員	小中学校のお母さんたち、初めての子育てのお母さんたちって、自分の子どもが多動じゃないかとか、結構思われているお母さんたちが多いんですよ。エレベーターの中でうちの子はと、そんな時に、「それくらいの動きはしますよと。」それだけでも安心されるんじゃないかなと思うんですけど、そういうのがもっとあればと思います。
市 長	そういうのは、「子育て支援センター」ですね。人気があるのは、周りのお母さんたちが不安を取り除いてくれるので、やっぱり多いんですよ。そういうしくみはやっぱりいろんな、子育て支援センターだけでなく、たとえば、保育所に行っても教えてくれるとか、保育所などは一番いいんだと思うんです。みなさんわかりやすい。そこに行くと地域の窓口みたいなものがあって、相談に乗ってくれるという子育て支援機能がありますよね。
事 務 局 (市長部局)	実際、お母さんたちの相談を先生たちがしっかり受け止めてお話をしたりとか、例えば、先ほどの発達障害などについても保育所の加算制度など

市 長	<p>があるので、保育所の方から市に連絡があった場合は、加算のフォローをしたりそういう連携をしたりして、親御さんもなかなか発達障害と認められないというようなところを上手にお話ししながら、そういうのがありますよ、障害福祉センターで見てもらいませんかというようなご紹介をしたりとかしてつないだり現在はやっています。</p> <p>歴史上でいうと、子育てに関して、今みたいにいろんな仕組みが動いている時代はたぶんなくて、昔はそういうのは必要なく、近所のおばちゃんなどがすぐ預かってくれていた。それがだんだん難しくなって仕組みにしないといけなくなって、仕組みのすき間ができてという感じになってきているのだろう。ただ、仕組みをつくらないと埋もれてしまう人たちが出てくるので、頑張って仕組みを作っていくしかないと思いますが、かちかちの仕組みではなく、柔軟い仕組みだといいですね。</p> <p>この会議のテーマなので、アンケートじゃないですけど意見を集めてもらって次の回までに、こういう場面ではこういう意見が多かったとか、こういう場面ではこうだったというのがあると思うので、集めると結構面白い結果、こども部や教育委員会の仕事に使えるような情報など結構集まるかもしれない。</p> <p>では、これは引き続き議題としていくということによろしいでしょうか。</p>
市 長	<p>では、次に今後のテーマについては、今の、 アンケートをもとにもう1回議論を行うということによろしいですか。</p>
委 員	<p>(了承)</p>
市 長	<p>次に、(イ) 長崎市教育大綱について事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>(市長部局説明)</p>
市 長	<p>かなりいろいろ議論して前回策定したので、ころころ変わるのもどうなのかと思いますが、数年経過して付け加えたり、あるいは、この大綱に沿って進んだこととか、何をやってきたのか、検証の部分も少し加えながら、手を加えるべきところがあるのかどうかということを議論していく。</p>

委 員	(了承)
市 長	よろしいですか。では、次回また今日の議題にあった場所の切れ目のない子育て支援や、教育大綱について議論して行って来年度予算にしっかりつなげていきたいと思います。よろしく申し上げます。それから、この前片淵中に行かせいただきましたが、現場に行くのもすごく刺激になるし、やはり現場が一番大事でもあるので、機会があればいろいろ行ってみたいと思います。景観教育でもどんなふうにするのか。それから、できれば高校生のチャレンジショップも。長崎LOVERS育成プログラムの一つで、長崎商業高校だけでなくいくつかの高校で行うので。ぜひ。
事 務 局 (市長部局)	次回、来年度の会議については、改めて日程調整をさせていただき、ご連絡させていただきます。
市 長	それでは、長崎市総合教育会議を終わります。お疲れ様でした。 【17：30 閉会】